

5. 科学史・文化

龍溪書舎編集部 編

明治・大正の東京景観と風俗・行政を究める！

復刻版

近代日本地誌叢書・東京編 全42巻

A5判・総約16,300頁

揃本体価630,000円

――本叢書の特色――

- ◆明治11年（1878）11月の区郡制改正を中心として、明治後期および大正時代にまで及ぶ、東京の生活に関わる資料55点をはじめ総集した。
- ◆収録した資料は、いずれも編著者・出典の確定したもののみで、さらに現在ではほとんど入手困難な文献を対象とした。
- ◆従来の政治・経済上の区分けを排し、町鑑・繁盛記物・地理地名・公文書・商工資料・災害・都市計画・風俗・庶民生活・郷土史など広範な分野にまで収録範囲を広げた。
- ◆付載された統計図表・地図・写真等はすべて原本に従って復刻し歴史資料としての活用に具えた。
- ◆専門家・研究者のみならず、文学者・考証家および各図書館・研究機関においても利用しうる体裁とした。

収 録 内 容

配本	巻号	書名	編著者	発行所	発行年
1	1	改正区分町鑒	松本平吉	松本平吉	明治9年11月
		改正区分鑑	井上勝五郎	井上勝五郎	明治11年11月
		東京区分町鑑（全）	石坂吉兵衛	松澤庄次郎	明治10年3月
		改正東京町鑑（15区6部）	福田榮造	福田榮造	明治11年11月
		東京開化繁昌誌（1～4編）	高見澤茂	大和屋喜兵衛	明治7年5月
	2	東京名勝圖會 東京名所獨案内	阿部啓五郎、小島彦七 上田文斎	丸屋善七 青木恒三郎	明治17年3月・7月 明治23年3月
	3	東京名所鑑（上・中・下）	相澤 求	富田彦次郎	明治25年6月・9月
	4	東京古蹟史	大橋義三	大橋義三	明治31年6月
	5	東京明覧（上）	織田純一郎他	（株）集英堂	明治37年1月
	6	東京明覧（下）	織田純一郎他	（株）集英堂	明治37年3月
	7	浅草繁昌記	松本傳十郎	賽力社	明治43年12月
	8	東京見物 江戸史蹟	藪野樟十 山縣 操	金尾種次郎 内外出版協會	明治40年6月 明治45年4月
	9	京橋繁昌記	石川庄平	京橋協會	大正元年11月
	10	日本橋繁昌記	宇井善八	日本橋協會	大正2年12月
2	11	下谷繁昌記	曾根松五郎	明治教育社出版部	大正3年12月
	12	東京案内	實業之日本社		大正3年3月
	13	東京史蹟寫真帖 新撰東京遊學案内	戸川安宅 藤井 眞	書報社 集文社	大正3年9月 大正5年5月
	14	東都新繁昌記	山口義三	山添平作	大正7年6月
	◆vol. 1～vol. 14 全14巻 分冊本体価210,000円 ISBN 978-4-8447-8058-8				
	15	新東京繁昌記・附大阪繁盛記	水島爾保布		大正13年6月
	16	東京新繁昌記	服部誠一	聚芳閣	大正14年12月
	17	東京の史蹟	東京市	牧口駒三郎	大正14年4月
	18	改正増補・東京案内 史蹟名勝天然記念物概観	児玉永成 東京市公園課	大倉孫兵衛 東京市役所	明治14年3月 大正15年3月
		帝都郊外發展誌・城南の巻 改正・東京附地誌略（上・下）	小松悦二 東京府學務課	東海新聞社 弘文社	昭和3年12月 明治12年2月
	19	東京市區改正全書	深津雅直	竹内拙三	明治22年5月

2

20	東京地理沿革誌	看雨隠士	稲垣常三郎	明治23年 4 月
21	東京市町名起源考 渋谷町誌	鈴木 忠 渋谷警察署新築落成祝賀賛會	鈴木 忠 有田 肇	明治28年10月 大正11年 8 月
22	東京勸業協會終始一斑 東京風水害救済會報告書	宮崎豊次 中村由次郎	東京勸業協會 中村由次郎	大正 6 年 5 月 大正 7 年 3 月
23	東京府民政史料	東京府	東京府	大正 7 年 3 月
24	東京地名便覧	東京市電氣局	東京市電氣局	大正10年 8 月
25	東京市の改造	村高幹博	民友社	大正11年 2 月
26	最近東京市商工名鑑 (上)	東京市役所商工課	地涌學會出版部	大正13年 9 月
27	最近東京市商工名鑑 (下)			
28	職業別復興調査録 (上)	佐々木元芳	東京商工通信社	大正14年 7 月
29	職業別復興調査録 (下)			
◆vol. 15～vol. 29 全15巻			分冊本体価225,000円 ISBN 978-4-8447-8059-5	

3

30	職業別新東京商業便覧	須川三郎	新東京社	大正13年 6 月
31	目黒町誌	村上三朗	東京朝報社	大正13年 9 月
32	板橋町誌	山田元禮	板橋新聞社	大正13年11月
33	すがも總攬	中山由五郎	巢鴨總攬刊行會	大正14年 2 月
34	町会町名地番整理案輯攬 八王子	復興局整地部 八王子市役所	復興局整地部 八王子市役所	大正14年 4 月 大正15年10月
35	滑稽珍談 現今東京の有様 今日の東京	西森武城 尾崎逸足	九春堂 和田篤太郎	明治21年 1 月 明治23年 1 月
36	東京の過去及将来	細野猪太郎	金港堂書籍	明治35年 9 月
37	東京	田村昌新		明治35年 1 月
38	浅草案内誌 残されたる江戸	佐伯徳海 柴田流星	金龍山梅園院 洛陽堂	明治36年 4 月 明治44年 5 月
39	東京の解剖 一付都会安価生活	長谷川清涯	研文堂	大正 6 年 2 月
40	東京の女	松崎天民	磯部甲陽堂	大正 4 年 5 月
41	蒲田郷土史 日本橋區大觀	樽林宇翁 日本橋區役所	樽林蒲仙堂 日本橋區役所	大正 8 年 5 月 大正11年 3 月
42	東京の表裏八百八町	杉韻居士	鈴木書店	大正 3 年 5 月
◆vol. 30～vol. 42 全13巻			分冊本体価195,000円 ISBN 978-4-8447-8060-1	

近代日本学術用語集成

第1期

明治 全7巻
(第1～7巻)

ISBN 978-4-8447-3308-9

本体価98,000円

近代文明の普及は、その文明の利器やその背景にある文化の国民的理解なくしては成立しなかった。

漢字文化圏に育成されてきた日本は、明治維新後、それら文明や文化を日本語で語り、日本語で記述することができたことにより、この普及に成功した。新しい概念を伝統的な言葉の中で学びとることがいかに困難であり、いかに重要であるかは、われわれが今日なお外国文化の摂取に際し

て体験しているところであるが、しかし明治の日本人がそのために払った努力は、まことに偉大であった。

ここに、明治期に編纂された主要学術用語集を復刻し、その苦心の跡を顧み、わが国近代文化の形成を再検討する機会を広げんとする、刊行者の素志を汲む学徒の多数出現を期待してやまない。

(188・6 初版)

(189・5 2版)

残僅少

収録内容

第1巻 哲学・教育・心理・論理関係篇

- ①哲学字彙
- ②教育・心理・論理術語詳解
- ③珍袖通俗神話辞彙

第2巻 法律関係篇

- ①佛和法律字彙
- ②獨和法律辭典

第3巻 商業関係篇

- ①英和商業新字彙

第4巻 数学・物理学関係篇

- ①Vocabulary Physical Terms in The Four Languages, English, Japanese, French, and German
- ②Butsurigaku ni Mochiyuru Go no Wa-Ei-Futsu-Doku Taiyaku Jisho

③数学用語英和对訳字書

- ④電気訳語集 A Vocabulary of Electrical Terms in English and Japanese

第5巻 化学・植物・鉱物学関係篇

- ①本稿化学語彙
- ②植物学語鈔
- ③鉱物字彙

第6巻 工学関係篇

- ①工学字彙

第7巻 医学・解剖学関係篇

- ①珍袖医学字彙
- ②解剖学名彙

第2期

大正 全12巻・総17冊
(第1～12巻)

ISBN 978-4-8447-3331-7

本体価340,000円

第1期全7巻において明治の文明開化期を中心に、西欧との出会いの時代を点検した。

第2期は、大正期を中心に、いよいよ先進諸国に伍そうとして、諸国に深くかかわって文化の具体的な事象の追求に向った諸先輩の努力を集積した。そこには、軍事用語から社会主義用語まで、科学技術面では、歯科学、鉄道用語におよぶ広がりを持つとともに、第1期に収録した諸編の展開を示す改訂版も多く採録した。これらを比較検討するとき、日本の学術の進歩の足跡を実感できよう。

(190・8 刊)

残僅少

収録内容

第1巻	最新哲学辞典	第8巻(下)	英和電気工學辞典 第3回増補電気工學術語集
第2巻	英和法政經濟商業辞典	第9巻	英和船舶工學術語集
第3巻(上・下)	最新独和法律經濟辞典	第10巻(上)	英和海語辞典
第4巻	内外商品辞彙	第10巻(下)	DICTIONARY OF SEA TERMS
第5巻(上・下)	社会科学小辞典(1930年版)	第11巻(上)	英和陸海軍兵語辞典
第6巻	英和物理用語新辞典 英和地学辞彙(第4版)	第11巻(下)	日英海軍用語集 仏和兵語辞典
第7巻	英和工學辞典(増補改訂8版) 英和建築語彙 英和鐵道用語辞典	第12巻	掌中齒牙解剖学名彙全 英羅和訳近代齒科学彙
第8巻(上)	増訂第3版化学語彙 英和化学工業語彙		

第3期

大正補遺篇

(第13~20巻) 全8巻・総9冊

ISBN 978-4-8447-3374-4

本体価180,000円

第2期では、いささか視野をひろげたために、選択した用語集が拡散し、分野によって濃淡を生じた。諸方を探索し、未だ充分とはいえないが、漸く研究者のご関心に応えられる諸語を採集することができた。

これらは、われらが次に予定する昭和前期の学術解明への「かけはし」とする意味もある。

(‘94・4刊)

残僅少

収録内容

第13巻	警察辞典(富益義衛 編著 大正15年)	第17巻	神祇辞典(山川鶴市 著 大正13年)
第14巻	社会問題辞典(高島素之 編 大正14年)	第18巻	現代文芸新語辞典(大畑徳太郎 著 大正7年)
第15巻	支那支那問題辞典(河瀬龍雄 著 大正15年)	第19巻	現代語辞典(素人社出版部 大正13年)
第16巻	金融辞典(銀行研究社 編 昭和7年)	第20巻(上・下)	現代語解説(文化之日本社編輯部 大正14年)

第4期

昭和篇 [1]

(第1~6巻) 全6巻・総12冊

ISBN 978-4-8447-0350-1

本体価300,000円

『近代日本学術用語集』は「第1期 明治篇 全7巻 16書収録」「第2期 大正篇 全12巻 22書収録」「第3期 大正補遺篇 全8巻 8書収録」と復刻してきて、今回いよいよ昭和期に入った。20世紀第2・四半世紀本邦学術の進歩発展を、学術用語上で再検証する段階に到ったのである。今回は昭和一桁代の著作から、時勢に即した用語辞典類を挙げてみた。

明治以来の西欧文明導入の流れがひとまず頂点に達するのは昭和前期である。大戦を隔てて、戦後日本の国際化を新たな波と理解することも出来、少なくとも戦前の直列的継承・拡大発展とは異なると認識すべきである。それを現代の風と呼ぶならば、近代の流れは断絶へ向けて、最後の実りの秋を迎えつつあるといえよう。

この時期、われわれの先輩が学び蓄積したものは何だったか。分析が待たれるのである。(‘09・9刊)

収録内容

第1巻(上)	新時代の尖端語辞典 長岡規矩雄著(昭和5年)	第4巻	新特高辞典 横清光輝(昭和6年)
第1巻(下)	〃	性行辞典 友田宜剛著(昭和7年)	
第2巻(上)	昭和百科現代の常識 秋山逸博・太田武次郎編(昭和2年)	第5巻	広告辞典 室田庫造編(昭和8年)
第2巻(下)	〃	第6巻(上)	食物辞典 沢村真著(昭和3年)
第3巻(上)	教育辞典 入沢宗寿著(昭和7年)	第6巻(中)	〃
第3巻(中)	〃	第6巻(下)	〃
第3巻(下)	〃		

蘭学資料研究会 刊／監修 緒方富雄
索引編集 朝倉治彦
解題 杉本 勲(代表)、石山 洋、向井 晃
片桐一男、藪内 清(執筆順)

復刻版

蘭学資料研究

(研究会報告書第1号～第316号)

全24巻

ISBN 978-4-8447-0351-8

A5判・総約8,500頁

本体価250,000円

幕末から明治への転換期、日本の近代国家成立を可能にしたものは、高い西洋文明をすでに消化吸収しつつあった民間の学問蓄積の存在にあるとも言える。今日われわれが学ぶ学問の相当部分(例えば学術用語)がすでに日本語化し、日本語で論議している事一つをとってみてもそのことは言える。それは江戸末期迄にすでに営々として蘭学を中心に、西欧文化を日本語に翻訳し、とり入れようとした先達の長い苦心が背景にあったからである。

蘭学資料研究会が過去の30年に亘って研究して来たものは、この文化導入の経過を基礎的に、網羅的に、失われつつある資料を全国的に発掘調査したものであり、他には全く類書を見ない。医学史・科学史・文化史・近代史全般の必須文献である。

(’86・6 初版)
(’87・10 2版)

残僅少

蘭溪書舎編集部 編

『蘭学資料研究』附巻

解題・総目次・索引篇

ISBN 978-4-8447-0352-5

A5判・188頁

本体価8,000円

蘭学資料研究会刊行の『蘭学資料研究』第1号～316号迄を全24巻にまとめて復刻。これに対応して解題・総目次・索引(人名・書名・事項)を記載した。解題は杉本勲、石山洋、向井晃、片桐一男、藪内清、総目次・索引は朝倉治彦による執筆。

(’86・6 初版)
(’87・10 2版)

長谷部言人 著／索引 朝倉治彦
解題 長谷部満彦

復刻版

大小暦

ISBN 978-4-8447-0300-6

B6判・270頁

本体価2,500円

本書は、大小暦についての最初について唯一の専門研究書である。「大小」の魅力にとりつかれた一知識人がコツコツ楽しみながら集め、説き明かしていった興奮を読者と共に分かち合える様に判り易く、興味深い内容をさまざまな角度から解説。原本(昭和18年刊)は古書としても一般にまづ見られない稀覯本である。

『大小暦』は貞享の頃より発句、狂歌、戯文等と共に異常な発達を遂げた我国独特の智能的娯楽品である。

旧暦では1年の内、大の月が30日、小の月が29日で、各月の大小は年毎に変わり、およそ3年毎に来る閏月の位置も大小も、また不定である。

いつの頃からか、その年の月々の大小を暗記し易い、判じ物風の標語、発句、和歌、絵などが考え出され、これを懐紙に記入して知人に分ける事が流行し、さらにそれを木版摺にして年頭の廻札に携え、名刺代りに配る様になり、年々の慣例にと発展した。これが大小暦である。機智とユーモアに満ち、明和頃より浮世絵・錦絵の技法を採り入れ、個性豊かに表現されたこれら諸作品は、絵暦とも称されている。

約200年間に亘った行事として我国民族・文化史上極めて異色の貴重資料である。(’88・3判)

東京市役所 編／解説 槌田満文

復刻版

東京市町名沿革史

(昭和13年8月原本刊)

附・新旧対照町名一覧(昭和49年1月現在)

ISBN 978-4-8447-6397-0

A5判・約730頁

本体価25,000円

本書は、関東大震災後に東京市が都市計画としての区画整理を行うにあたって配布された各種の資料をまとめて昭和13年に刊行(非売品)されたものの復刻である。その典拠とした文献には『江戸妙子』『御府内備考』『新編武蔵国風土記稿』『江戸名所図会』『東京府志料』『東京案内』など、第一級のものを駆使している。此度の復刻には、本編のほか、昭和49年1月現在の「新旧対照町名」が附され、地名研究を立体的に把握できるようにした。東京研究には不可欠の文献である。(’95・12判)

立命館大学図書館所蔵善本復刻叢書(第1期)
建都1200年記念企画
解題 衣笠安喜(代表)、伊藤宗裕、鈴木祥二、
中森 洋、樋爪 修

近世風俗・地誌叢書〔1〕 全15巻

ISBN 978-4-8447-3409-3
A5判・総約5,200頁

本体価300,000円

— 収 録 内 容 —

巻号	書名	巻号	書名
1	駅路の鈴／南遊紀行	6	京羽二重大全
2	西遊紀程／京都順覧記	7～14	山城名勝志
3	京城勝覧	15	諸国図會年中行事大成
4・5	花洛名勝図會		

学園創設100周年を迎えようとする立命館大学所蔵の「西園寺文庫」のなかから京都関係のものを主に江戸時代に刊行された地誌、名所記、年中行事絵図を『近世風俗・地誌叢書(1)』として、影印刊行。建都から今日に至る1200年間、京都は学問と文化の都であり、伝統文化を再生した新たな文化を創造する歴史を刻み続けてきた。出版文化の上でも、特に江戸時代の京都はその中心であり、文化情報の発信地であった。(96・5刊)

大日本監獄協会 刊／三谷一馬 序

復刻版

大日本刑獄沿革略史

(明治28年5月原本刊)

ISBN 978-4-8447-6407-6
A5判横長・図版多数・130頁

本体価6,000円

明治28年6月、パリでの万国監獄會議開催に際し、我国の刑獄沿革史を紹介するために編纂(非売品)。合わせて現行監獄則・全施行細則、囚人動作・監房構造図を添えた。全頁の半分は図で占められ、当時の監獄内での囚人の動作、刑執行の様子等をビジュアルに伝えている稀観本。(96・5刊)